



# 文学部生になったら - 在学生・卒業生に聞く -

## 竹田 有佑

(TAKEDA Yu 2年生)  
京都市立堀川高等学校卒業

### 1週間の時間割

	月	火	水	木	金
1		教育学 A			社会統計学
2	企業と経営	越境する文化	社会学史	教育学 B	哲学特殊講義
3	社会調査概論		Autonomous English I	ドイツ語中級 C1	社会学講義
4	Productive English I			言語学特殊講義	
5					

2年生になって専修に分かれ、ある程度授業も専門性を増しており授業を受けるのが楽しくなったように思います。  
他方「教養」と呼ばれる全学部共通の科目も多く見られますが、これらも文学部では触れられない分野の興味をかき立てられるのでとても楽しいです。

### ある1日の過ごし方

6:00 起床。朝食。京都在住なので早起きです。  
7:00 大抵で駅までダッシュします。  
8:20 登山  
8:50 1限 社会統計学  
社会学ではたくさんデータを用いるのでその手法を学びます。満員電車と登山のおかげで目は冴えています。(笑)  
10:40 2限 哲学特殊講義  
屋前の陽気と教授の優しい口調に眠気を誘われながらも踏ん張ってノートを取ります。  
12:10 昼休み  
やっご飯が食べられる。食堂は混雑しているのにはよく別のスペースで食べています。  
13:20 3限 社会学講義  
英語で書かれた社会学の論文を専修の仲間と教授と共に読み解きます。なかなかスタミナ消費します。  
15:00 授業終了!!!  
以降はバイトをしたり、所属するサークルの諸々をしたりして日によってはまったりと、日によってはバタバタと過ごしています。  
24:30 就寝。多分平均これくらいの時刻には寝ています。

文学部は自由なところだと言われますが、文学部こそそれを体現した土壌だと思います。  
他学部では必修授業で時間割がほぼ決まって来てしまうこともありますが、文学部では1年生の頃から自分の組みたい時間割を組みます。それ故にバイトでもサークルでも自分のしたいことに重点を置いて過ごしやすいと感じます。さらには自分がどう行ったら専門分野に進むかも1年生の終盤までは「入門」と呼ばれる授業で知識をつけ、選択するための時間が与えられます。  
事実僕もバイトで週平均13時間は働き、サークルも軽音楽と学祭実行委員を掛け持ちして(なんとか)時間をやりくりできています。  
歴史、文学、アート、社会など興味を広く持っていてなおかつバイトやサークルも本気でやりたいたいという欲張りなあなたにとってとてもいい環境となると思っています!



## 徳高 ノエル

(TOKUTAKE Noel 1年生)  
長野県長野高等学校卒業

### 1週間の時間割

	月	火	水	木	金
1			English Communication		初年次セミナー
2	English Literacy	人文学導入演習	健康・スポーツ科学実習基礎		知識システム入門
3		西洋古典語(キリシア語)	情報基礎	史学入門	人文学導入演習(芸術学)
4	文学入門	ドイツ語初級		ドイツ語初級	
5	西洋古典語(ラテン語)				

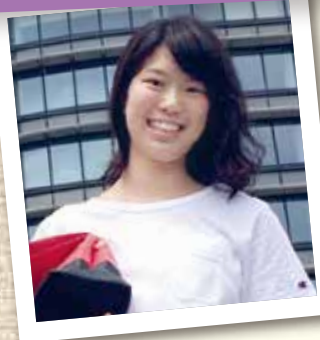
中学の修学旅行で京都・奈良に行き、東日本とは違う関西の雰囲気にも魅せられ、神戸大学に来ました。高校生の頃は平安時代の文学を学びたいと思っており文学部に入りましたが、ドイツ文学や芸術学にも興味が出てきたので、1年生の間に色々な学問に触れ、専攻を決めるのが楽しみです。

### ある1日の過ごし方

7:00 寝ぼけながら起床。  
朝食を作り、大抵ニュース番組を見ながら食べます。  
8:30 授業の課題などをします。スーパーなどに行くこともあります。  
10:40 「人文学導入演習」  
古典とは何か、を生徒主体で議論しながら考えます。自分の考えを人前で発表するのは緊張しますが、いい経験になります。  
12:10 授業終了、食堂へ。  
とにかく混む。でもおいしいです。  
13:20 「西洋古典語<キリシア語>」  
キリシア語は慣れなくて難しいですが、暗号を解読するような楽しさがあります。  
14:50 授業終了。次の授業は国文キャンパスなので、急いで移動。思った以上に国文キャンパスまでは遠いです。  
15:10 「ドイツ語初級」  
文学部長の増本先生が話して下さるドイツのお話はとても面白いです。ドイツ語が好きなので、とても楽しいです。  
16:40 授業終了。この日はサークルなどが特に無かったので、このまま帰ります。  
18:00 途中スーパーやらコンビニやらよりながら帰宅。  
19:00 夕食を作ります。大抵料理アプリを参考にします。課題・予習をしたり、テレビを見たりします。この時間にお風呂にも入ります。  
24:00 就寝。

阪急春日野駅から近い学生マンションに下宿しています。高校までは田舎に住んでいたため電車がすぐ来ることに最初は驚きました。朝は電車とバスを使って登校していますが、たまに歩くこともあります。大学生だと、授業が無い時間があるのでその時間に予習などができるのが新鮮でした。  
サークルは2つ所属しています。ダンスサークルと軽音サークルで、軽音サークルではヴォーカルをしています。ダンスは中学生のころからしていましたが、軽音はほとんど初心者なので非常にわくわくしています。5月現在、まだほとんど活動をしていませんのであまり色々サークルについてお話しすることはできませんが、どちらも先輩方はとても優しく、楽しい雰囲気のあるサークルなので、これから4年間を楽しみます。  
文学部の魅力は、人数が少ない故のアウトホームな雰囲気です。1年間学び終えた後に15ある専修の中から希望する専修を選ぶ、というのも、他の学部にはない面白いところだと思います。何より、自分の興味ある分野について好きなだけ掘り下げることができるというところに何よりも魅力を感じます。皆さんもこの神戸大学文学部で私たちと一緒に学んでみませんか。

## 学部時代の思い出



## 大野 裕紀子

(OHNO Yukiko 2017年3月卒業 トヨタ自動車株式会社勤務)

神戸大学文学部での学びの流れを簡単に説明すると、1年生の間は語学と、教養原論と呼ばれる全学部共通の一般教養、加えて文学部の専門科目の入門の授業を受講します。そして1年生の内から文学部の多様な専門を入門的に学ぶ中で、2年生以降に自分がどの専修に進みたいかを考えます。そして、2年生の後期から卒業するまでの2年半は、各専修にて自分の専門を詳しく学び、4年生での卒業論文執筆に向けて勉強を進めていきます。  
そして在学中に、自分の専門だけでなく、純文学から社会科学まで多岐にわたる分野に触れた点が非常に有益であり、また同じ学部内で全く毛色の異なる学問を学べる点が、文学部の素敵な所だと私は思います。例えば、心理学専修に進んで以降も受講し続けた美術史の授業で学んだ知識が、ヨーロッパ旅行での絵画鑑賞を非常に実りあるものにし、入門の授業で取り扱った英米文学の書籍が、企業で働いた後に出会った多国籍の人との共通の話題になったりと、

自分の人生や、世界中の人々とのコミュニケーションを数段豊かにする「教養」をしっかりと学べた点が、今の私の財産になっています。  
そして自分の専門の心理学について、私は卒業論文執筆に当たって文化心理学を選び、人の心や行動の背景となる文化差について真剣に考え向き合いました。経済や経営学等を学ぶ学生が多い中で、「人の心」に焦点を当て学んだ事が、4年生での就職活動にも大変プラスに作用したと思います。心理学専修では、授業以外でも先生方が社会心理学、認知心理学の様々な実験にお声がけ下さり、海外の先生との共同作業や学会でのポスター発表を始め、積極的に学べる環境がありました。また卒業研究では体系的な要素もあり、自身で実験を計画し仮説を立て検証していくという作業を実際に行い、その中で試行錯誤した経験が今後社会人として仕事をする中でも生きてくると私は思います。

**教養科目** 教養科目には、原則として1・2年次に履修する基礎教養科目と総合教養科目、3・4年次に履修する高度教養科目があります。人文科学だけでなく社会科学や自然科学についても幅広く現代の教養として身につけ、他分野にまたがる課題を考え協働して解決する力を養います。文学部で人文科学の研究を進める上でも、しっかりと学んでおくことが必要です。

**外国語科目** 外国語科目は、「外国語Ⅰ」として英語を、「外国語Ⅱ」として、ドイツ語・フランス語・中国語・ロシア語のなかからひとつを選び、合わせて2カ国語を学びます。文学部ではこの他に、韓国語、イタリア語、西洋古典語(古代ギリシア語とラテン語)の授業も開講されていますが、専門次第で学生はさまざまな言語を独学します。人文学を学ぶ者にとって外国語の習得は必要不可欠です。

**基礎科目** 基礎科目は、人文学の基礎を学び、専門科目での学修を豊かなものにするための準備を行う科目です。専修決定後は、それぞれの専門を深く研究することになりますが、教養科目や基礎科目は、そのための礎石であり、自分の専門研究に広がりを与えてくれるものです。基礎科目には、各講座の入門、人文学導入演習、人文学基礎などがあります。また、大学生として自立的な学びを促すため、初年次セミナーが用意されています。  
**専門科目** 専門科目は、専門的な講義、演習、実習などからなります。単位制度に基づく大学の授業は、必修科目と選択科目の取得単位数がそれぞれ決められています。必修科目は必ず履修しなければなりません。選択科目は一定の範囲内から自由に選択できますが、それらは講座ごとに細かく指定されていますので、注意が必要です。また、ひとつひとつの授業の学習を徹底するために、1年間で履修登録できる単位数には上限が定められています。したがって、履修にあたっては、入学後に配布される学生便覧やガイダンスでの説明に従い、各学期の始めに、どの授業を取りたいか、受けなければならないかを十分に考えて、計画的に登録してください。

### ③ 講義と演習 — 「徹底した少人数教育と課題探究能力の開発」

文学部で高い割合を占める授業科目が、特定のテーマを探究する「特殊講義」と、数人から十数人で行う「演習」、いわゆるゼミです。実験やフィールドワークを含む「実習」も同じく少人数で行われます。中でも、文献や資料を講読したり、自分で選んだテーマについて研究報告を行い、受講者で議論を戦わせたりする「演習」は、専門分野の研究手法や考え方を習得し、自ら課題を発見し解決する能力を鍛えるうえで大変重要です。

### ④ 卒業論文

卒業論文は、文学部4年間の学習と研究の結晶です。自分で研究テーマを決め、指導を受けながら、論文作成のための調査や分析も自力で行ないます。これまでに挙げた授業科目から必要な単位数を取得した上で、原則として20,000字(400字詰め原稿用紙で50枚)程度の卒業論文を作成し、口述試験(口頭試問)に合格すれば、卒業となります。

## 入学から卒業まで

### ① 専修の決定 — 「よく考えて自分の専門を決めることができる」

文学部には、哲学、文学、史学、知識システム、社会文化という5講座に15の専修があります。1年次の11月末頃に専修を決め、2年生からそれぞれの専修に所属することになります。自分は文学部でなにを研究したいのか、じっくり考えてから選ぶことができます。そのために、各講座ごとのガイダンスとも見える「入門」、人文学への導入をはかる「人文学導入演習」、そして各専修での研究の基礎を身につける「人文学基礎」など、学生の興味・関心に応じて選択できるように、いくつかの内容に分けて1年生向けの授業が複数開講されています。これを参考に、自分が進む専修を決定します。

### ② 文学部の授業科目 — 「四年一貫で学ぶ人文学の多様な広がり」

文学部の学生が4年間に学ぶ授業科目は、全学共通授業科目と文学部の専門科目に分けることができます。全学共通授業科目は、教養科目、外国語科目、健康・スポーツ科学などで構成されています。文学部の専門科目は、基礎科目、自由選択科目、卒業論文関連科目、卒業論文からなります。下の図に履修に関する学年ごとの大まかな流れを示します。

1年	2年	3年	4年
基礎教養科目 総合教養科目	基礎教養科目 総合教養科目	高度教養科目	高度教養科目
外国語科目	外国語科目	専門科目	専門科目
健康・スポーツ科学			
専門科目 (基礎科目)	専門科目		卒業論文

文学部への好奇心をアップする情報紙

# LET

FACULTY OF LETTERS,  
KOBE UNIVERSITY

神戸大学文学部

2018

LET 2018 発行 神戸大学文学部

〒657-8501 神戸市灘区甲台町1-1 電話 078-803-5595

http://www.lit.kobe-u.ac.jp/

文学部の国際交流

# 日本で勉強して、 世界を発見する

Studying in Japan, Discovering the World

『世界』への問いかけを続けること

佐々木 祐 (社会学専修)

文学部生になったら — 在学生・卒業生に聞く —

入学から卒業まで  
神戸大学文学部での4年間





# 日本で勉強して、世界を発見する

## Studying in Japan, Discovering the World

留学というのは、留学している国について学ぶことだけではなく、自分の文化について様々な発見をすることです。自分の国が好きであっても、慣れっこになってしまい、その美しさと面白さに驚くことはない場合が多いと思います。逆に、少し離れて、違う立場から、違う目で見ると、自然の美しさや文化の豊かさへの薄れてきた畏敬の念が改めて新鮮になると考えます。文学部及び人文学研究科では数多くの留学生も学んでいます。今年も人数が多く、20か国、85名の留学生が在籍しています(2017年5月1日現在)。留学生と日本人学生が触れ合う機会は授業だけではなく、毎月最初の水曜日に行われるインターナショナル・アワーという行事の中でもお互いに文化と言葉を理解し合うように努力しながら、友達を作ったり、新しいことを発見したりします。例えば、インターナショナル・アワーの一つのイベントとして、淡路人形座を招き、日本人の学生も、留学生も、日本の伝統的な文化である人形浄瑠璃に触れて、浄瑠璃の歴史、発声法、道具、登場人物の語り分けなどの説明を聞きました。お互いに自分の文化における劇などの話をしましたが、「生まれ

て初めて聞いたことだ!」という発言が多かったです。「汝自身を知れ」という言葉がよく使われていますが、異文化を理解しようと思う時に特に重要であると思います。ずっと同じ国、同じようなコミュニティーで生活すると、物事の考え方が変わるはずありませんが、留学する時や外国人と出会う時に自分の国に対する見方も変わり、深くなります。例えば、私が教えている日本の文化人類学の授業では、日本人の学生にとっても、留学生にとっても一番難しいのは自分の文化を分析することです。生まれた文化と社会が当然なものだと思い、真剣に考えることは少ないからです。グローバリゼーション(国際化)というのは国ごとの伝統的な文化がなくなるのではなく、異文化と容易に触れ合う機会が増えるということだと信じています。今年の創立記念日に滋賀県に出かけて、日本人の学生と留学生は同じような反応で日本の伝統的な芸術、自然の美しさに驚き、石山寺で開催中の紫式部展で日本の歴史と文学について学び、バスのなかの会話でお互いに自分の国の歴史と有名な物語について話しました。



留学生担当講師  
タマン カルメン  
Tamas Carmen

大学時代は学びとして一番重要な時期で、その時期に異文化を理解できる機会もあって、世界が広がるのは本当に「見逃せないチャンス」だと思います。文学部及び人文学研究科で勉強すると、自分の文化の理解が深まり、人生を変える発見も多いと思います。

## LET MESSAGE BOX



「ビートルズしてる?」  
「へ?」  
「ビートルズしてる?」  
「何?」  
「してる?」  
「知ってる」と言いたかったのに、なかなか通じなかったのです。

海外に住んで、普通の環境から離れるのはいろいろと面白いですが、日本に来たばかりの時はこのような会話が多かったです。こういう時は今もあって、チューターたちはもちろん、他の日本人の友達にも説明してもらえるのは大変ありがたいです。それだけではなく、チューターさんのおかげで、最初のころでも生計を立てることができました。一番困ったところは何回も寮の住所を漢字で書くことでした。

最初の学期は、私は日本の生活にまだ慣れていなくて、文学部のイベントや旅行に行くのが気軽に楽しい旅をする機会となりました。もっと自信を持つようになって以来、文学部のリラックスした雰囲気や、ダジャレを許す先生をありがたく思います。

今は、留学生センターから神戸の街並みを眺めると、懐かしくなってきたものがたくさん見えます。偽物のイギリス料理を売っている店がある三ノ宮。いつでもおしゃれな阪急電車。六甲アイランドのクレーンの赤い光。

これからも、神戸を楽しんでいきます。文学部の皆さん、今までありがとうございました!

John Trusted  
(KOJSP留学生、英国)

KOJSP(神戸オックスフォード日本語プログラム)チューターとして留学生と過ごすというのは、素晴らしい経験です。「一緒に苦勞し、楽しいこともする。そして、たくさんのことを学びあう」、私にとつてのチューターの仕事はこのようなものです。日本語を学ぶ手伝いをするなかで、英語と日本語の表現にある違いに悩まされました。一つの言葉を見つけるために、何十分もかかることもあります。その度に英語と日本語について考えることができました。また、日常生活においても、言語や文化の違いから、分かりあうことに苦勞することもありました。



楽しかった思い出は、焼き芋パーティー・お花見などのイベントや、お昼休みにみんなで早口言葉を練習したことなどいろいろあります。一緒に過ごし、コミュニケーションを取ることができれば、どこの国の人も仲良くできたので、すべてが楽しい思い出になりました。

学びあうと表現したのは、留学生との交流を通してチューター側もたくさん学ぶからです。楽しいことをしようと考え、日本の生活を見つめ直すこともあるし、外国について学ぶこともあります。

皆さんも神戸大学でチューターをしてみてください。言い尽くせないほどの経験ができ、最高の友達も作れます!

宇戸 瑞季  
(KOJSPチューター学生)

日本に来る前に4年間ぐらいピッツバーグ大学で日本語を勉強していました。今回、長期間日本に滞在するので、日本で留学することに緊張していました。私の夢は通訳になることです。そして、日本に留学したら私の日本語を上達させることができると思いました。日本に着いたら、神戸大学の学生はとても優しく、手伝ってくれました。

神戸大学ではたくさんのイベントがあり、多くの学生に出会うチャンスがありました。日本人と友達になることができるとうれしいです。ピッツバーグ大学にいる時より日本文化を体験することができました。神戸大学の授業ではピッツバーグ大学の授業より深く日本語を学ぶことができます。短時間でたくさんの日本語を習得することができて驚きました。今学期は私の日本語能力を試すために、日本語でゼミを受けました。それは私にとって挑戦でしたが、興味をもつことでもありました。私は日本の武道に興味があり、合気道部に入りました。



日本での留学生活は私にとってかけがえのない大切な思い出になりました。日本の生活に慣れたので、アメリカの生活に戻ることができるか心配です。私は、日本の友達と離れたくありません。

日本で出会った先生や友達に感謝の気持ちでいっぱいです。

Amanda Michael  
(交換留学生、米国)

中国からの交換留学生で、神戸に来て、あっという間に八月目になりました。この八か月間を振り返ってみると、学校、クラブ、バイト、友達など、様々な面で、思いがけない刺激が与えられたばかりではなく、数えきれないほど貴重な思い出が残っています。



神戸大学では幅広い分野の授業が開講されていて、留学生もあまり制限がなく、興味のある授業を履修したり、聴講したりすることができます。所属する地理学の指導教員もとても親切で、専門知識や日本事情、人生経験など、一々丁寧に教えてくれました。そして、時々地理学の現地調査へ連れて行ってもらって、実際の日本土地と触れ合いながら、日本でしか勉強できない地理学を体験しました。

勉強の他、文学部や留学生センターによって行われる様々な活動に参加することで、各地を旅行したり、日本文化を体験しながら、いろいろな文化背景を持つ人々と知り合いました。彼らと付き合っているうちに、自分の視野が広がっていき、考え方も少しずつ変わっていきます。生活上、チューターや新しくできた友達が支えてくれたりして、心強く日々を過ごしています。

神戸大学に入ったら、ぜひ大切な資源を生かして、学生生活を楽しんでください。

汪 子瑶  
(交換留学生、中国)

## 『世界』への問いかけを続けること

神戸大学文学部のある六甲台第二キャンパスからは、神戸市全域とその向こうに広がる大阪湾、そしてはるか淡路島までも見わたすことができます。大学までの坂道はやや厳しいものの、それもこの素晴らしい眺めで報われようというものです。絶好のロケーションにある我が文学部ですが、ここは第二次世界大戦終了からしばらくのあいだ、占領軍であるアメリカ軍の将校用住宅地「六甲ハウス」として使用されていました。当時の航空写真を見てみれば、現在の敷地の構造がかつての軍人居住区のそれを非常によく保存していることに驚かされます。ともあれ、1958年に土地が返還されるまで、日本に住む一般の人々にとってこの眺望を享受することは禁じられていたのです。

神戸大空襲と戦後の復興、六甲山系の土砂を使用した埋め立てや再開発によって急速に塗り換えられていったこの風景は、1995年の阪神・淡路大震災で再び劇的な変化を被りました。神戸大学関係者も含めて多くの犠牲者を出したあの悲劇から20年以上経過した今、眼下に広がる風景は全く新しい様相を私たちに示しながら、現在も刻一刻と変化しつつあります。

こうしてみると、文学部からの眺めという「ただそれだけ」のものの背後に、じつはきわめて重層的な歴史や意味、複雑な構造や動態があることがわかります。一見なんの変哲もないような事物であっても、多様な視点からの「問いかけ」と「読解」を行なうことで、思いもよらぬ相貌をわたしたちに見せてくれるようになります。また、世界のそうした変化を経験したわたしたちもまた、すでにかつての自分とはどこか違った存在になっている

ことでしょう。神戸大学文学部における営みも、まさにこうした出会いと相互変容の連続だといえるかもしれません。哲学、文学、歴史学、心理学、言語学、芸術学、社会学、美術史学、地理学といったさまざまな学的視座から、過去から現在にいたる(あるいは、未来にいたる)ひとつひとつのとり組みに対する問いかけが、日夜続けられているのです。また、そうした試みの過程で顕れてくる「世界」の新たな意味は、さらなる問いへと、わたしたちを誘ってくれます。またこうした発見は、それぞれの学的領域において批判・検証され、より豊かな「知」の共有財産として蓄積され継承されてゆきます。このように、文学部における個別の営みは、きわめて広範な人類の知的作業へと接続されているわけです。そうしてみれば、世界への問いかけというこのとり組み自体が、本来的な意味における「グローバル」を共同作業にほかならないでしょう。開放的な神戸大学において世界への問いかけを続けるなかで、全く新しい視野と全く新しい「自分」を獲得すること。そうした作業を皆さんとともに進めることができれば、と思っています。

## 佐々木 祐 准教授(社会学専修)

